

Toshiyuki Muramatsu 村松 稔之



カウンターテナー
Countertenor

ソプラノ
Soprano



Kyoko Hattori 服部 響子

Toshiki Tsumuraya 圓谷 俊貴



ピアノ
Piano



SOS 子どもの村
JAPAN

SOS子どもの村支援コンサート

2025年7月11日(金)

14:00 開演
ホール開場 13:30

会場

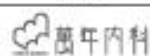
あいろふホール

福岡県福岡市中央区御船2-5-1

主催

Ciao Junko 子どもの村支援コンサート

後援



福岡県久留米市城島町江上上184

出演者プロフィール

PROFILE

Toshiyuki Muramatsu



カウンターテナー
Countertenor

村松 稔之

京都市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科、同大学院修士課程独唱科を首席で修了。

その後イタリアに渡り、ノヴァーラG.カンテリ音楽院古楽声楽科で研鑽を積む。

第20回ABC新人オーディション最優秀音楽賞、第12回千葉市芸術文化新人賞、第24回青山音楽賞新人賞、第13回東京音楽コンクール第3位等受賞。2017年度野村財団奨学生、2019年度京都市芸術文化特別奨励者。

2017年三枝成彰「狂おしき真夏の一日」ユウキ役で好評を博したほか、A.ライマンの歌曲「カウンターテナーとピアノのための5つの歌曲」（日本初演）や、現代歌曲を加えたプログラムで出演したウ・フォル・ジュルネ

TOKYO 2018、2020年の井上道義★野田秀樹「フィガロの結婚」クルビーノ

役、また2022年6月には、ジャズアレンジでのCD武満徹ソング・ブック「小さな空」をリリースし「レコード芸術」

2022年8月号で特選盤に選ばれるなど、活躍の場を広げている。2022年10月には、ヘンデルのオペラ「ジュリオ・チェーデレ」のクレオパトラの従者ニレーノ役で新国立劇場へのオペラデビューを果たし、高い評価を得る。

村松稔之の公式LINEアカウントID: @toshiyukiで【友だち追加】

服部 響子

京都市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業。

在学中、声と音楽のコラボレーション集団VOICE SPACEに参加し、倉敷公演、北京公演に出演。

その後イタリアに渡り、パルマ A.ボイト音楽院を賞賛、特別賞付きの満点で修了。在学中、パルマ・ソングクラブより奨学金を受ける。「フィガロの結婚」ステラ、「ジャンニ・スキッキ」ネッタ、「愛の妙薬」ジャンネッタ、「中將姫」タイトルロールなど、ボローニャ音楽祭でのヴェーベルン「室内オーケストラとソプラノのための4つの歌」、ラヴェル「マダカスカル島民の歌」等、また新作初演のソリストを務めるなど、活躍の場を広げている。イタリア・モデナ在住



Kyoko Hattori

ソプラノ
Soprano

ピアノ
Piano



Toshiaki Tsumuraya

園谷 俊貴

チェンバリスト・指揮者。

2020年12月発足の古楽オーケストラ「プロムジカ使節団」Promusica Baroque Academyを主宰し通奏低音および指揮を務める。2024年度よりJ.S.バッハ カンタータ全曲演奏に挑戦中。東京藝術大学音楽学部器楽科古楽チェンバロ専攻を卒業。J.S.バッハ等のチェンバロ協奏曲のソリストを務め、2024年9月には平川知恵作曲のチェンバロ協奏曲「四季への招待」を初演。伴奏ピアニスト、コレペティートルとしても評価が高く、様々な歌手がリサイタル共演者に指名。第88回日本音楽コンクール木下賞（共演）受賞。2024年4月に1stアルバム「プロムジカ使節団 with 加来徹〜イタリアンソング〜」をリリースし、芸術現代社出版「音楽現代」誌（特選盤）に選出される。福島県古殿町出身。「古殿町ふるさと応援大使」を務める。Promusica Continuo株式会社 代表取締役、合唱団 CVP指揮者。

X(Twitter) : @Tsumulan, @Promusica_PBA

選弾

佐々木邦雄 作曲「Ocean Beat (大洋の鼓動)」

第15回トリカムピアノコンクール
選弾C部門 グランプリ

高年 和花 Waka Mannen

福岡大学附属大濠高等学校 スーパー進学コース二年

酒井 悠名 Haruna Sakai

リンデンホールスクール中高等学校 高校二年



主催者
萬年 順子



ごあいさつ

GREETINGS

音楽の素晴らしさを伝えたい。小さい時の事を思い出す昨今
父の自転車に乗せてもらって藤原義江のコンサートへ連れて行ってもらったのは小学生の頃だったと思います。
その素晴らしい歌声は今でも私の心に残っています。
素晴らしいものに出会うと体が反応し、美しいものに出会った時の感動は何にも代えられません。私は、人生の
豊かさは芸術や文化に触れることで自分を磨き、本物との出会いを見つけることにあると信じています。

今日のコンサートは、子どもの村支援コンサートです。SOS子どもの村JAPANは、家族と暮らせない子どもたち
とその家族のために活動する国際NGOで、オーストリアから始まり、現在は世界130以上の国と地域で活動し
ています。日本では14年前に福岡市に設立されました。私はこの10年間、コンサートを企画し、チケットの売り上
げを募金として寄付してきました。今日も休憩時間や終演後に、皆さんに募金をお願いしたいと思いますので、
よろしくお願いします。

出演者プロフィール

PROFILE

Toshiyuki Muramatsu

村松 稔之

京都市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科、同大学院修士課程独唱科を首席で修了。

その後イタリアに渡り、ノヴァーラG.カンテリ音楽院古声楽科で研鑽を積む。

第20回ABC新人オーディション最優秀音楽賞、第12回千葉市芸術文化新人賞、第24回青山音楽賞新人賞、

第13回東京音楽コンクール第3位受賞。2017年度野村財団奨学生、2019年度京都市芸術文化特別奨励者。

2017年三枝成彰「狂おしき真夏の一日」ユウキ役で好評を博したほか、A.ライマンの歌曲「カウンターテナーとピアノのための5つの歌曲」（日本初演）や、現代歌曲を加えたプログラムで出演したラ・フォル・ジュルネ TOKYO 2018、2020年の井上道義★野田秀耕「フィガロの結婚」ケルビーノ

役、また2022年6月には、ジャズアレンジでのCD武満徹ソング・ブック「小さな空」をリリースし「レコード芸術」2022年8月号で特選盤に選ばれるなど、活躍の場を広げている。2022年10月には、ヘンデルのオペラ「ジュリオ・チェーレ」のクレオパトラの役者ニレノ役で新国立劇場へのオペラデビューを果たし、高い評価を得る。

村松稔之公式LINEアカウントID: @toshiyukiで【友だち追加】

カウンターテナー
Countertenor

服部 響子

京都府出身。東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業。

在学中、声と音楽のコラボレーション集団VOICE SPACEに参加し、多数公演、北京公演に出演。

その後イタリアに渡り、パルマ A.ポイト音楽院を賞賛、特別賞付きの満点で修了。在学中、パルマ・ソントクラフより奨学金を受ける。「フィガロの結婚」スズナ、「ジャンニ・スキッキ」キアラ、「愛の妙薬」ジャンネッタ、「中將姫」タイトルロールなど、ポーレンヤ音楽祭でのヴェーベルン「室内オーケストラとソプラノのための4つの歌」、ラヴェル「マダガスカル島民の歌」等、また新作初演のソリストを務めるなど、活躍の場を広げている。イタリア・モデナ在住



Kyoko Hattori
ソプラノ
Soprano



ピアノ
Piano

Toshiki Tsumuraya

圓谷 俊貴

チェンバリスト・指揮者。

2020年12月発足の古楽オーケストラ「プロムジカ使節団」Promusica Baroque Academyを主宰し、通奏低音および指揮を務める。2024年度よりJ.S.バッハ「カンタータ全曲演奏」に挑戦中。東京藝術大学音楽学部器楽科古楽チェンバロ専攻を卒業。J.S.バッハ等のチェンバロ協奏曲のソリストを務め、2024年9月には平川加寿作曲のチェンバロ協奏曲「四季への招待」を初演。伴奏ピアニスト、コレペティートルとしても評価が高く、様々な歌手がリサイタル共演者に指名。第88回日本音楽コンクール木下賞（共演）受賞。2024年4月に1stアルバム「プロムジカ使節団 with 加来徹〜イタリアンソング〜」をリリースし、芸術現代社出版「音楽現代」誌（特選盤）に選出される。福島県古殿町出身。「古殿町ふるさと応援大使」を務める。Promusica Continuo株式会社 代表取締役、合唱団 CVP指揮者。

X(Twitter) : @Tsumulan, @Promusica_PBA

連弾

佐々木邦雄 作曲「Ocean Beat (大洋の鼓動)」

第15回トリカムピアノコンクール
連弾C部門 グランプリ

萬年 和花 Waka Mannen

福岡大学附属大濠高等学校 スーパー進学コース二年

瀧井 悠名 Haruna Sakai

リンドンホールスクール 中高等学校 高校二年



PROGRAM

第1部

大洋の鼓動～OCEAN BEAT～ 佐々木邦夫作曲

ピアノ連弾 萬年和花 酒井悠名

モテット「この世にまことの安らぎは」より 第1曲 ◆ A. ヴィヴァルディ作曲

歌劇「リナルド」より アリア「私を泣かせて下さい」★ G.F.ヘンデル作曲

二重唱「あなたの面差しは優美に溢れ」◆★

「6つの歌」より「僕は暗い夢の中にいた」◆ C. ヴィーク＝シューマン作曲

「ミルテの花」より「献呈」★ R. シューマン作曲

「5つの歌」より「夏の夜」◆★ M.レーガー作曲

第2部

花 ◆★ 瀧廉太郎作曲

この道 ★ 山田耕筈作曲

ゆりかご ◆ 平井康三郎

アヴェ・マリア ★ G.カッチーニ作曲

「レクイエム」より「ピエ・イエズ」◆★ A.ロイド・ウェバー作曲

オペラ「ラ・ボエーム」より「私が街を歩くと」◆ G.プッチーニ作曲

オペラ「タンクレーディ」より「この胸の高鳴りに」★ G.ロッシーニ作曲

オペラ「ホフマン物語」より 舟歌「美しい夜、愛の夜よ」◆★ J.オッフェンバック作曲

◆ ソプラノ 服部響子 Kyoko Hattori ★ カウンターテナー 村松稔之 Toshiki Muramatsu

ピアノ 園谷俊貴 Toshiki Tsumuraya

解説

PROGRA NOTES

大洋の鼓動～OCEAN BEAT～

佐々木邦夫作曲

曲のイメージは、大洋原のもつ巨大なエネルギーを、大きな波と岩に打ちつける波として表現する前後半部、逆に鏡のように静かな海面の下に広がる大きな力を表現した中間部から構成されています。「人間もこの大洋のような、大きな愛と勇氣に満ちあふれた人生を歩んで行こう!」という願いを込めて、作曲されました。若々溢れるエネルギーな演奏をお楽しみ下さい。

モテット「この世にまことの安らぎは」より 第1曲

アントニオ・ヴィヴァルディ (1678-1741)作曲

ヴィヴァルディはイタリア・ヴェネツィア出身、ヴァイオリン協奏曲「四季」の作曲家として広く知られていますが、その当時は作曲家としてだけでなく、ヴァイオリニスト、ピエタ慈善院付属音楽院の教師、劇場支配人など多岐に渡って活躍し、またカトリック教会の司祭でもありました。ヴェネツィア共和国では14世紀より共和国の保護の下、孤児を受け入れる慈善院が設立され、そこでは男子には職業訓練を、女子には家事裁縫等を教えられていましたが、次第に孤児たちの中で音楽的才能を持つ少女たちが選ばれ、彼女らに音楽教育を受けさせ、女子オーケストラ、合唱団が作られるようになりました。そのような音楽部門を持つ慈善院は17世紀のヴェネツィアには既に複数あり、ピエタ慈善院はその中の一つでした。運営費を貴族や裕福な市民からの寄付、また女子の手工芸の収入でまかなっていた頃はなかなか厳しかったようですが、そのうち音楽院のコンサートによる収入が運営を大きく支えることとなり、優秀な音楽家を監督や教師に呼ぶようになりました。ヴィヴァルディが1703年にピエタのマエストロに着任してからオーケストラ、合唱団のレベルはさらに高くなり、ヴィヴァルディの教え子たちから多くの優秀な女性ヴァイオリニスト、女性名歌手が生まれました。また生徒たちのための楽曲も多く書きました。女性のための音楽教育機関として最高レベルとなり、貴族の娘たちもここにレッスンを受けに来るようになっていました。

モテット「この世にまことの安らぎは」は1713年から1719年の間に書かれたとされています。モテットはミサではない、宗教的な内容を歌った声楽作品。ラテン語で書かれた歌詞の作者は不明。

「まことの安らぎはこの世には無い、恨みもなく、純粋で本当の安らぎは、あなたの中にあるのです、優しいイエス様。」

オペラ「リナルド」より

ゲオルグ・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759)作曲

ヘンデルは、18世紀に国際的に活躍した作曲家。ヨハン・セバスティアン・バッハと同じ年に生まれ、後世“音楽の母”“音楽の父”と並び称されるようになりました。バッハが生誕一度もドイツを出ることなく、わずか250キロの圏内で暮らしたのとは対照的に、ヘンデルは早くから外国に出て活動し、後半生はイギリスで暮らしました。コスモポリタンの先駆者ともいえる人でしょう。ヘンデルとバッハ、同時代に生きた2人の匠匠がまったく逆の生きかたをしていたのは興味深いところで、

「リナルド」は1711年、ロンドン時代に書いたいちばん最初のオペラで、十字軍遠征の時代を背景にしています。時の実力派ぞろいの歌手たち、手の込んだ豪華な舞台装置で聴衆を飽かし、そのシーズンで15回も上演されたそうです。原作は16世紀イタリアの詩人トルクアート・タッソの叙事詩「解放されたエルサレム」。

回教徒に奪われた聖地エルサレムを奪回した第1回十字軍の物語です。

アリア「私を泣かせてください」

敵であるイスラム軍に捕らわれたキリスト教軍の総司令官ゴットフリードの娘のアルミレーナが「私を泣かせてください この残酷な運命を そして自由を 惜しんで嘆くことを 許してください」と我が身の不幸を嘆く、もともと有名なアリアです。

二重唱「あなたの面差しは優美に遊れ」

第1幕の第6景で歌われる、アルミレーナと、軍の英雄リナルドの二重唱。「あなたの面差しは優美に遊れ」とアルミレーナが歌うと、リナルドは「きみの唇には、あまたの愛が子どもたちのように笑っている」と答え、お互いへの愛を確かめ合うのです。

「6つの歌曲」op.13 より「僕は暗い夢の中にいた」

クララ・ヴィーク＝シューマン(1819-1896)作曲

詩 ハインリヒ・ハイネ

クララ・シューマンはドイツの作曲家、ピアニスト、指導者。

ピアノ教師でピアノ工場主でもあった父と歌手の母の間に生まれ、9歳でピアニストとしてデビュー、ヨーロッパ各地でピアニストとして活躍し、名声を得ます。父の弟子となったロベルト・シューマンと出会い、二人は恋に落ちますが、父に結婚を反対され、最終的には裁判に持ち込んで1840年、ようやく結婚が叶います。結婚時にはクララの方がロベルトよりも音楽家として有名でしたが、結婚後は8人の母となり、演奏家としてのキャリアを継続、またフランクフルト音楽大ピアノ科主任教授に任命され、当時唯一の女性教授として指導者としても尽力しました。「6つの歌曲」Op.13 は結婚が叶った1840年から1843年にかけて作曲されました。結婚後すぐに次々と子どもに恵まれ、子育て、演奏活動に夫の創作サポートといった多忙な日々、作曲の時間は削らざるを得ない中、時間を見つけて書いた作品なのではと想像します。この作品の書かれた頃の結婚生活は忙しいながらも、その後と比べると順調だったと言えます。というのも、ロベルトの精神疾患が悪化していくにつれ、看病、更に経済的な問題などを彼女は一気に背負うことになっていきます。でも、彼女が晩年にこの自作を振り返ることがあったのなら、彼女にとって「あの幸せな時期」を思い起こすような作品であったならいいなあと願いながら歌っています。

「僕は暗い夢の中にいた 彼女の肖像面を見つめていた その愛らしい顔立ちは
ひそやかに息づき始めた 唇のまわりが動き 素晴らしい微笑が現れた そして対の瞳には
悲哀の涙が光っていた 僕も涙を流した ああ、僕は信じる事が出来なかった
君を失ってしまったことを！」

「ミルチの花」より「獻呈」

クララ・ヴィーク＝シューマン(1819-1896)作曲

詩・リュッケルト

シューマンはドイツ生まれ、19世紀を代表する作曲家の一人です。

1840年の「ミルチの花」は、26曲からなる歌曲集。まだ交際中だった恋人クララに向けて書かれ、結婚の前の夜、彼女に捧げられました。「獻呈」はドイツの詩人フリードリヒ・リュッケルトが書いた同名の情熱的な恋の詩をもとにしています。「君は僕の魂であり、命、大地、青空だ。」

「愛する花嫁へ」と書き添えて贈ったそうです。「最愛の人に最高の贈りものをしたい」というシューマンの深い愛情が伝わってきます。

「5つの歌」より「夏の夜」

マックス・レーガー(1873-1916)作曲

詩・トリーベル

レーガーはドイツ生まれ、19世紀末から20世紀初めに活躍した作曲家。

オルガニスト・ピアニストとしても知られており、短い生涯ながらその作品は多岐にわたります。13歳で教会のオルガニストとなるなど、音楽に早くから才能を示しますが、徴兵されて活動をいったん中断。除隊してから旺盛な創作活動を始めました。身長2メートル、体重は100キロを超え、大食漢でお酒もたばこも大好き、豪放落人柄で知られました。その音楽はまたドイツ音楽の伝統に秀しながら、時代を映した先駆的なものでした。

みづからをドイツ音楽史の「3大B」と呼ばれるバッハ、ベートーヴェン、ブラームスの伝統に連なる存在と自任していましたが、一方で少年時代にワーグナーにも傾倒するなど、彼の作風はそれまでの西洋音楽の枠に収まらない斬新さをもっていたのです。

のちに彼はライプツィヒ大学作曲科の教授兼音楽監督となり、さらにドイツ中部にあったザクセン＝マイニンゲン公園の宮廷楽団の指揮者に任命されるという栄誉を得ます。しかし窮屈な暮らしが合わなかったのか、ほどなく辞任しますが、折しも勃発した第一次世界大戦の影響で楽団が解散となり、団員たちが困っているのを見ると、彼らのためにコンサートを開いて援助を募るなど、人情家的一面も見せています。その後、再び自由を得てオルガン曲などの作品に着手しはじめたころ、かねてからの暴飲暴食や過労がたたったのか、心臓発作により43歳の若さでこの世を去りました。「夏の夜」は、1906年発表の歌曲集「5つの歌」の第5曲。

詩はドイツの女性編者・作家のゲルトムート・トリーベル。「私は夏の夜を静かに見つめている、静けさのなかで私の心は「故郷に帰りたい」と泣いている・・・」という内省的な歌詞。大きな体と豪快な性格で知られるレーガーの、外に見せていた顔とはまったく違う芸術家としての深い想いを垣間見ることが出来ます。

花

瀧廉太郎(1879-1903)作曲

詩・竹島羽衣

「荒城の月」や「箱根八景」、唱歌「鳩ばっば」、「雪やこんこん」、「お正月」などで知られる瀧廉太郎

が1900年8月に作曲した歌曲集(組歌)「四季」の第1曲目にあたる“花”は、瀧廉太郎の作品の中でも人気の高い楽曲で、東京都墨田区の区民の愛唱歌に指定されるなど、広く知られ、そのメロディは多くの人々に愛され歌い続けられています。

この道

山田耕筰(1886-1965)作曲

詩・北原白秋

山田耕筰とひとつ歳下の詩人北原白秋(1885-1942)の“名コンビ”による作品。

白秋が北海道を旅した時に書いた詩であり、大正15年の雑誌「赤い鳥」8月号に入れられ、山田耕筰は汽車の中でそれを読んでいてこの詩を見つけ、作曲しました。この詩の舞台は「北海道風景です。主人公は男の子です」と北原自身が解説しています。

「この道はいつか来た道、ああ、そうだよ、あかしやの花が咲いてる。
あの丘はいつか見た丘、ああ、そうだよ、ほら、白い時計台だよ。
この道はいつか来た道、ああ、そうだよ、お母さまと馬車で行ったよ。
あの雲はいつか見た雲、ああ、そうだよ、山査子の枝も垂れてる。」

ゆりかご

平井康三郎(1910-2002)

平井氏自身が作詞、作曲した作品。ゆりかごの中ですやすやと眠る赤ちゃんを優しい眼差しで見つめている様子が描かれています。

「ゆりかごに ゆれて しずかに おむれ 風は そよそよと 白い腕に咲くよ (後略)」

アヴェ・マリア

ジュリオ・カッチーニ(1545-1618)作曲

カッチーニは、イタリアの作曲家。ルネッサンスの末期からバロック時代の初期まで、メディチ家の宮廷に雇われた歌手、音楽教師、そして作曲家として、その活躍はめざましいものがあり、オペラ「エウリディーチェ」の作曲家としても知られています。「アヴェ・マリア」は古今の作曲家がさまざまな曲を書いていますが、実はこの曲は、カッチーニが書いたものではありません。

今日、「カッチーニのアヴェ・マリア」として知られているのは、旧ソ連の作曲家でリュート奏者のヴラディミール・ヴァヴィロフ(1925-1973)が、自作を“作者不詳”として発表したものといわれています。

「レクイエム」より「ピエ・イエズ」

アンドリュー・ロイド・ウェバー(1948-)作曲

ロイド・ウェバーはイギリス生まれの作曲家。1960年代後半からミュージカル作曲家としてのキャリアをスタートさせ、「ジーズ・クライスト・スーパー・スター」「エビータ」「キャッツ」「オペラ座の怪人」といった、誰もが一度はタイトルを聴いたことのある作品を手がけました。その作品はつねにロンドンのウェスト・エンドやニューヨークのブロードウェイで上演を重ね、多くの観客を集めており、日本でも劇団四季による上演はよく知られています。この「レクイエム」の初演は1985年。レクイエムとは、カトリック教会のミサの典礼文の一つで、「慈悲深いイエス様、世の罪を取りのぞいてください 彼らに安らぎを与えてください 永遠の休息を」と亡くなった方の魂の安らぎと平安を願うものです。ロイド・ウェバーは亡くなった父ウィリアムをしのいでこの作品を書き上げ、「ピエ・イエズ」は特に多くの人に愛された楽曲となっています。

オペラ「ラ・ボエーム」より アリア「私が街を歩くと」

ジャコモ・プッチーニ(1858-1924)作曲

舞台は1830年代のパリ。明日の成功を夢見る、貧乏暮らしの4人の若い芸術家が共同生活をしています。(ただし、芸術を学べる機会があったということは、それぞれ裕福な家庭に育ったと想像できます。)クリスマス・イブ、詩人ロドルフォは、友人の画家マルチェロたちが出かけていく中、一人仕事のために部屋に残っていたところ、ろうそくの火を求めると部屋を訪れたお針子ミミと出会い、二人はすぐに恋に落ちます。二人で友人たちの持っているカフェ「モミュス」へ向かい、みんなでワイワイやっている時、マルチェロの元恋人ムゼッタが、初老のパトロンと共に現れます。マルチェロの気を引こうとムゼッタが歌うのがこの場面です。

「私が一人で街を歩くと、みんな立ち止まって見る。頭から足まで、私の美しさを!

そして私は人々の熱望を味わう。見える魅力から、隠された美しさまで見通そうとする熱望を。

私を取り巻くその欲望が、幸せな気分にくれる!

(マルチェロに向かって)自分でわかっているでしょう?

私のことを思い出して苦しんで、私から逃げていているということを。

私は知ってるのよ、あなたはその苦惱を言いたくないだけで、

本当は死ぬほど苦しんでるってことを!

このシーンの最後、ムゼッタとマルチェロは復讐します。その後また喧嘩別れしてしまうのですが……!